第１Ｂ分科会　研究課題「教育課程に関する課題」
研究主題「学力向上に向けた教育課程の工夫・改善」
～学力向上に向けた授業改善と学びの環境づくりへの教頭の関わり～

提言者　都城支会　都城市立西岳中学校　福松　直樹

１　主題設定の理由

本市における小学校及び中学校の学力の現状は「みやざき小中学校学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果から、満足できる状況とは言えない。同様に庄内・西岳・夏尾地区における学力の現状も地区ごとに差はあるが学力向上が喫緊の課題の一つである。また、西岳・夏尾地区の小中学校は児童生徒数が少なく複式学級が多い。そのため職員定数が少なく、児童生徒の実態に応じた指導方法や授業の在り方について職員間で話し合い、改善していく機会が十分でない面もある。更に、教頭として学力向上に対し、共通した指導や支援が十分に行えていないという状況もある。

そこで、教頭が、学力向上の核となる授業の改善と担任が児童生徒に十分に向き合うことができる学びの環境づくりへ積極的に関わることで、本地区の児童生徒の学力向上を図ることができると考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

庄内・西岳・夏尾地区における児童生徒の学力の課題を踏まえ、教頭が授業改善や学びの環境づくりに積極的に関わり、児童生徒の学力向上を図る。

３　研究の内容

⑴　学力向上に向けた授業改善への関わり
⑵　学びの環境づくりへの関わり

４　研究の概要

⑴　学力向上に向けた授業改善への関わり

本市は、その学校教育ビジョンの中で小中一貫教育により、「すぐれた知性」「豊かな心」「たくましいからだ」「ふるさと教育」の推進を図ることを示している。学力向上については、中学校区の小中学校の全教職員が、学力の実態を分析し、中学校３年時に生徒が巣立つときの姿を共有した上で、義務教育９か年を見通した主体的な授業改善及び学力向上の研究を推進している。教頭としては、教務主任をはじめ、小中一貫教育担当者等が各ブロック内で、前年度の反省を踏まえて研究会が進められるよう指導や助言を行っている。

①　庄内ブロックの取組

ア　学力調査等の分析及び課題の共通理解と学力向上に結びつく家庭学習の推進

イ　「庄内スタンダード」とＩＣＴ活用を関連付けた授業づくり

ＩＣＴの活用(STEP3)で学力向上を目指した研究授業を行った。その中で都城市が推進する「わさびの授業」について協議を行った。教頭としては、授業づくりや協議の進め方について助言を行うなどの授業改善に関わった。

②　西岳・夏尾ブロックの取組

令和５年度は、西岳中学校にて次の視点により研究授業を行った。教頭としては授業展開や指導案検討、事後の指導や助言を行うなどの授業改善に関わった。

ア　ICT を効果的に活用した授業実践

授業の始めにキュビナを用いて既習事項の復習を行って本時の授業につなげている。このことは生徒一人一人が手軽に復習でき、時間短縮にもつながっている。

また生徒自らが、これまでの学習結果を動画や写真で記録することにより、新たな発見や気づきに結びつき、思考の幅を広げることができた。

イ　子どもたちが主役の授業(わ・さ・び)の推進

生徒の思考の段階にあわせ、教師の発言は最小限にとどめ、生徒一人一人の思

考の時間を確保するなど、教師は支援の役(脇役)に徹することができた。

⑵　学びの環境づくりへの関わり

ＧＩＧＡスクール構想に基づき１人１台の端末のもと、令和５年度も児童生徒が端末を有効に活用し、主体的に考え、学び、表現し、まとめることを目指したＩＣＴ活用の学習活動を行っている。教頭の関わりとしては、各職員がＩＣＴを効果的に活用できる環境づくりについてＩＣＴ担当者と連携を取りながら進めていることである。

①　ＩＣＴ活用の環境づくり

西岳・夏尾地区の小学校は小規模である。そのため、各学年や各教科の学習内容に適した人数や学習形態で授業を行うことにより、児童一人一人の主体的・対話的で深い学びの場を保証する合同学習を行っている。

そこで、ＩＣＴの活用について、ブロック担当者と連携し、次のような手順で環境づくりを行っている。

ア　ＩＣＴ連携環境の整備

イ　ブロック担当者会によるＩＣＴの活用

ウ　ＩＣＴ活用の課題や技術的問題等の整理と情報交換

②　ＩＣＴ活用の実際

ア　各学校の授業者との打合せ

これまでＮＮ学習の打合せを集合して行っていたが、各小学校の学年担任ごとの都合にあわせてそれぞれでオンラインを活用して行っている。そのため、時間削減につながり、より細かい打合せを行うことで充実した合同学習を行うことができている。

イ　学校間の合同学習

○　ＮＮ学習（小学校）

ＮＮ学習とは、西岳小学校、吉之元小学校、夏尾小学校が合同で年間５回行う合同学習のことである。令和４年度は、第１回と第５回にオンラインにて各学年１時間ずつ行った。

第１回は、地域探検の単元学習で、あかいけ(西岳小)、太郎窯(吉之元小)、自然が見える場所(夏尾小)について合同学習を行った。

第５回は、学年ごとに合同学習を行った。１・２年生では国語科の教科学習、３・４年生では将来の夢について伝え合うキャリア教育の学習、５・６年生では総合的な学習の時間で調べたことの発表を行った。

児童の活用の技能は、年々向上し主体的な学習活動へとつながってきている。

○　合同修学旅行（中学校）

西岳中学校・夏尾中学校・笛水中学校は、２年に１回、３校で修学旅行を実施している。お互いに学校間の道のりも遠いことから、移動時間の有効活用を考えオンラインにて生徒間や職員間の事前の合同学習や打ち合わせを行っている。

令和５年度は、４月下旬に対面で職員の打ち合わせを行った。また、７月上旬はオンラインにて生徒の合同学習を行った。具体的には、自己紹介や学校紹介、オリエンテーション、スローガン検討、目標などについて行った。いずれも生徒の進行により行われ、ジャムボードの活用で意見を集約し、生徒主体の合同学習を十分な時間をかけて行うことができた。

そして、９月下旬には、職員間でオンラインによる連絡協議会を行った。初めての試みではあったが、検討事項や共通理解事項の確認についての時間を十分に確保することができた。

５　研究の成果と今後の課題

⑴　研究の成果

○　研究推進委員会をもとに、研究の在り方、研究授業の進め方、指導案の検討、事後研究会の進め方など、学力向上に向けた有意義な研修につなげるために、指導や助言を行うことができた。

○　オンラインの有効な活用により、ＮＮ学習などの合同学習を、ＩＣＴを用いて子どもたちが主役の授業へと結びつける支援や指導を行うことができた。

⑵　今後の課題

●　日々の授業において、若手職員が中堅職員やベテラン職員から指導や助言を受けやすい環境づくりなど、ＯＪＴ機能が発揮できる橋渡し役を今後も進めていく必要があ

る。

● 学力向上につながる効果的なＩＣＴの活用について、ＩＣＴ担当者と連携しながら、研修を企画するなどの橋渡し役を今後も進めていく必要がある。